

B-3* 日本のふくろ物（第2報）

—懷中物の変遷—

聖和学園短大 中村 恭子

数多い日本のふくろ物のうち、最も日本的なものの1つに懷中する形式のふくろ物がある。この懷中物は中古の畳紙を源としている。畳紙は帖紙とも懷紙とも称せられ、下って近世には鼻紙とも称された。鼻紙と称せられるに及んで、鼻紙袋（紙入）、鼻紙ざし（紙挾）、はこせこ、の類を生み財布、がま（蝦蟇）口、ハンドバックに至っている。

今回は第1報（ふくろよりかばんにいたる衣服入について）に引続き、以上1連のふくろ物を中軸として時代の推移と共に変遷してきた懷中物について考察してみた。